



社会福祉法人 ほっとスマイル


ぽぽデイ名塩駅前 669-1134 西宮市名塩新町 5021-11 TEL 0797-62-0705


ぽぽデイ東山台 669-1133 西宮市東山台 1-1 TEL 0797-62-1165 (1F)

TEL 0797-26-7705 (2F)

視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚。人間は5つの感覚を通して情報を得ています。この内、視覚と聴覚は人間の成長に関わりが大きいということでよく問題にされますが、残りの3つの感覚は人間生活のなかでどれほどのウェイトを占めているのでしょうか。例えば、色を表すことばの豊富さ(ちなみに日本工業規格では13色の「基本色名」に加えて269色もの!「慣用色名」が規定されているそうです)に比べて、味覚を表すことばの少なさに驚かされます。この頃テレビで美味しいラーメン屋さんや居酒屋などがよく紹介されていますが、聞いていると、リポーターは、結局は「おいしい!」か「うまい!」としか言っていません。辛い、甘い、酸っぱい、苦い、しょっぱい、他に味を表すことばって何がありましたっけ?でも、視覚や聴覚に比べて、味覚を表すことばの数が少ないからと言って、味覚にあまり「意味がない」というと実はそうではありませんよね。味覚や嗅覚、触覚が人間生活に占める意味の大きさは、これらの感覚が「人間が生きる」ことに直接結びついているだけに、計り知れません。もし何らかの事情で「味がしない」「匂いがしない」、「何に触れているか分からない」ということになったとしたら…?!人間は「感覚の動物」であって、その感覚が視覚や聴覚であっても、味覚や嗅覚、触覚であっても、人間にとって大切なことに違いはありません。なでしこジャパンの宮間キャプテンは試合中円陣を組む時、必ず互いに肌が触れ合うように気をつけていたそうです。「触れ合う」という触覚がチームワークという人間関係のベースになることを彼女は経験的に知っていたのです。ぽぽで暮らしていると、子どもたちによく「見て、見て!」と言われます。(ここにアンパンマンの絵があるのを)「見て!」。(わたしがお弁当をカラッポにしたのを)「見て!」。(ぼくがうまくタオルを洗濯ばさみにはさんだのを)「見て!」。「見て!」「見て!」「見て!」…。見て、触れ合って、そして匂って(某職員さんは靴下の匂いを嗅いで、洗剤の匂いでその靴下が誰のものか分かると言っています…)、トータルに子どもたちとの関係を作っていきたいなと思います。おそらく「人間関係」というものはそういう「全体性」に支えられているのでしょから。(M記)

お願い

 持ち物に記名を再度お願いいたします。消えかかっているものや新調されたものにも忘れずお願いします。

 台風の季節になりました。大雨、暴風、洪水警報が発令された場合、閉所の取り決めをしています。詳細をお伝えできないご家庭があればプリントをお渡ししますのでお申し出ください。



きらり (すてきな瞬間を紹介します)

第3土曜日、「お友だちとのやり取りが苦手」なOくんは初めてポッチャ(カーリングのようなルールのボールゲーム)に参加し、「自分の気持ちを言うことが苦手」なMさんとチームを組みました。私たちはOくんが一人でボールをとって投げってしまうのではないかとハラハラして見守っていました。

ところが、Oくんは「先にやっていいよ」「いけ!」とM君を励まし、Oくんも期待に沿って次々決めていきました。顔を見合わせてとても楽しそうに。苦手なんかじゃない、ほんの少しのきっかけでうまく気持ちを伝えられることを私たちは教わりました。



## ペアレントトレーニング 1回目

★ 9月8日、保護者の方8人が開始時間ぴったりに集まり、1回目のペアレントトレーニングに臨みました。初めに親御さん自身の気持ちの状態を知るためのSTAIという質問紙に記入しました。6回の講座の後で気持ちがどう変わるかを見るそうです。日頃お子さんのことを中心に考えているお母さんにとっては、自分自身を振り返る新鮮な時間でした。

★ 次はサポートブックの書き方について学びました。今まで「みやっこファイル」をお渡ししていたものの、書き方についてはお伝えすることができておらず、とてもいい機会になりました。書き方のコツはお子さんをわかってほしい相手を決めることだそうです。例えば、学校の先生や習い事の先生を思い浮かべながら「～すると落ち着きます」「大きな音は苦手です」など伝えたいことを具体的に書いていきます。皆さん初めてにもかかわらず、丁寧にたくさん書いておられました。実際にうまく活用できるといいですね。

★ 宿題は「人をほめましょう」。誰をどのようにほめたのかを記録し、意外に難しいほめ方のコツを学んでいきます。



### 子どもの減少と障害児教育の対象者の増加

この地域の5歳未満の子どもは、28年には857人で、23年の69%である。また小・中学生は、28年には2906人で、23年の87%であり年々減少している。

一方、全国調査によれば、小学校の知的障害児学級の在籍者数は、27年では、66,720人であり21年の1.34倍になっている。中学校の知的障害児学級の在籍者数は、33,495人で1.29倍である。

小学校の自閉症・情緒障害児学級は、66,720人で21年の1.29倍であり、中学校の場合は、25,772人で1.29倍である。

また、自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥・多動性障害を対象とする通級在籍者数は、小学校では43,958人で、21年の2.35倍、中学校は8,648人で3.09倍である。

障害児学級や通級が整備されたこと、障害児教育の関心度の高さや成果、医療の進歩等色々な要因があると思われる。  
(N記)

### スタッフの一言

爽やかな風を感じるようになるとお散歩シーズン到来です。えのころ草でこそばしあいっこしたり、蝶やトンボに目がかがやかせる子ども達。自然に触れて、子どもも大人もリフレッシュ！散歩っていいですね～。  
(名塩駅前 米山貴子)

東山台のリトミックでは、最近、パラバルーンを使って活動しています。大きなバルーンに最初は「何だろう？」と戸惑うお子さんもいましたが、曲に合わせてバタバタふるうちに、みんな笑顔になりました。曲の合間で「上」「下」などの即時反応も取り入れながら今後も活動していきたいと思っています。  
(東山台 松本愛子)

